

自然発見クラブ「身近な野鳥のための巣箱づくり」の報告

2月18日（土）10時から12時、神奈川県自然環境保全センター主催の自然発見クラブで巣箱づくり講座がセンター本館にあるレクチャールームで開催された。自然発見クラブでは、野外施設にある素材を利用した工作体験を通して、自然環境保全・再生や自然体験の大切さを学びます。

この日の参加者は定員20名に対し14名（子ども8名・大人6名）でした。野生動物救護の会の遠藤さんに講師をしていただきました。巣箱を作る前に、①巣箱はなぜ作らなくてはいけないか、②街に住み着いた野鳥（スズメ、ヒヨドリなど）は巣を作る場所が必要、③自然の中で樹木にできた穴や岩のすき間を使って巣作りをする野鳥（スズメ、シジュウカラ、ヤマガラなど）、④良い巣箱の条件（出入りや巣の大きさが適当であること、水はけが良いこと、止まり木などは取り付けない、てん板が開かないようにする）、⑤巣箱の材料（スギの木の野地板を使う）と巣箱の寸法などを教えていただきました。それから、巣箱の作り方の説明や注意点を聞いて、手元の巣箱組立手順書（イラストで子どもが理解できるように工夫）を見ながらさっそく作業に取りかかりました。ひとり1つずつ自分の手で巣箱作りに挑戦しました。巣箱材料セットの中のうら板、よこ板（左・右）、おもて板、底板の順に、クギを打って組み立て、てん板は開閉できるようにちょう番を付け、てん板を本体にネジで固定しました。組み立てた巣箱に好きな絵を絵具で描いて完成させました。クギがうまく打てないなど少し苦戦した場面もありましたが、みなさん時間内に、無事完成させました。完成させた巣箱はテーブルに並べて比較しながらみんなで鑑賞しました。子どもの想像力は豊かで色とりどりでした。最後に遠藤さんから巣箱のかけかた（①時期：12月から3月上旬、②場所：前が開けた見通しの良いところ、③樹木に取り付ける時：針金は木を傷つけるので使わない。ショロ縄を使う）と、かけた後の注意点（①鳥が巣箱に来るようになったら巣箱をさわらない、②冬が来るまで巣箱を開けない、③巣立ったヒナを見つけても近づいたりさわったりしない）などを教えていただきました。完成した巣箱は、みなさん、家に持ち帰りました。家の近くに巣箱をかけて、鳥がはいてくれるといいですね！

おわりに、野鳥観察会と巣箱づくりは愛鳥教育としてよく行われます。今回、行った巣箱づくり講座が愛鳥（野鳥を大切にし、守ろう！）を考えるきっかけに少しでもなれば良いと思います。 小野

・風景写真



講義の様子



巣箱組立手順書・巣箱材料セット



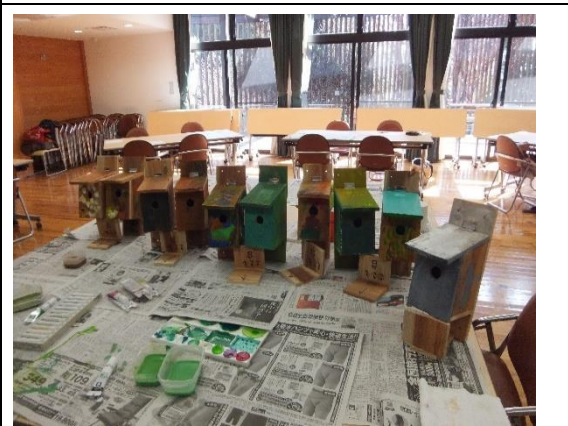
巣箱づくり①板にクギを打って組立



巣箱づくり②てん板をちょう番で固定



巣箱づくり③巣箱に絵を絵具で描く



完成した巣箱